

第1学年1組 国語科学習指導案

日時：令和5年12月8日（金）3校時

場所：浜田市立松原小学校 1年1組教室

教諭

学校司書

- 1 単元名 すきなおはなしをしょうかいしよう
- 2 教材名 すきなおはなしはなにかな 東京書籍1年下
- 3 学級 松原小学校 1年1組 17名
- 4 単元づくりの構想

本単元で付けたい力

①文章を読んで感じたことや分かったことを共有する力。

②書くことを見付け、必要な事柄を集めて伝えたいことを明確にする力。

情報活用能力指導の観点

○題材の設定

d 身近なことや経験したことなどから興味・関心に応じて学習課題を決める。

○情報の収集

e 伝え合うために必要な事柄か判断して選ぶ。

○共有

n 大事なことを順序よく話す。

教材の特質

本単元は、読書活動を通して読書に親しむ学習の系統に位置付けられる。物語の好きな人物や好きなところを友達と伝え合うことで、物語を読む楽しさを感じることにつながることができる。読書そのものの楽しさや読書について対話することの楽しさを味わわせることで、生活の中でも読書を行いたいという意欲を高めるのに適した単元であるといえる。

友達に伝えたい本を選ぶ段階では、互いの好きな物語を紹介し合うという学習活動に向かうために、物語の内容や出てきた人物が分かりやすい本を選定し児童に選ばせることとした。

本単元に関わる子どもの実態

省略

5 単元の目標

(1) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。【知識及び技能】(3) エ

(2) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。

【思考力、判断力、表現力等】C(1)カ

(3) 経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。【思考力、判断力、表現力等】B(1)ア

(4) 積極的に読書に親しみ、好きな物語を読んで感じたことを共有しようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

6 単元の指導計画(全7時間扱い)

第一次 これまでに読んだ本や物語を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。

第二次 「すきなおはなしをしようかいしよう」

- ・友達に伝えたいお話や人物を決める。
- ・「しようかいカード」を書く。
- ・好きな物語や好きな人物について紹介し合う。

第三次 友達に紹介された物語を読み合い、学習のまとめをする。

7 本時の指導(4/7時間目)

(1) 本時のねらい

友達に紹介したい物語の好きなところを決め、「しようかいカード」を書くことができる。

【思考力、判断力、表現力等】B(1)ア

(2) 本時の展開

学習活動	・教師の支援	【評価】
1. 本時の課題をつかむ。	・本時のめあてと学習の進め方を確認する。	
おはなしのすきなところを見つけて、「しようかいカード」をつくろう。		
2. 紹介カードの書き方を確認する。	・教師が作成した見本を見ながら、紹介カードの書き方(付箋1枚について好きなところ1つを書くこと)を確認する。 ・人物の好きなところだけではなく、お話全体の好きなところも書いてよいことを伝える。	
3. お話の好きなところを付箋に書き、紹介カードに貼る。	・見本の紹介カードを掲示しておくことで、書き方を確認しながら自分のカードを書くことができるようにする。 ・書きにくい児童には、選んだ本の中の好きなページを聞き、好きな理由を聞き取ることで、紹介したいことを決めることができるようにする。	
【思考・判断・表現】 発言・観察・紹介カード ・自分が紹介したい本について、伝えたいことを明確にして「しようかいカード」を書いている。		
4. ペアの友達と紹介し合	・紹介カードの読み方や相手に分かりやすく伝える話し方について確	

<p>う。</p> <p>5. 学習を振り返る。</p>	<p>認し、個人で読む練習をしてからペアの友達に伝えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を変えて繰り返し伝えることで、自信をもって紹介することができるようにする。 ・学習を振り返り、本時の学びを実感させたり、次時の課題を確認したりして学習のまとめとする。
------------------------------	---

8 本時の評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が紹介したい本について、伝えたいことを明確にし、相手に伝わりやすいように「しょうかいカード」を書いている。 ・書いたカードを見直したり、友達にアドバイスをしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が紹介したい本について、伝えたいことを明確にして「しょうかいカード」を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本の紹介カードを確認しながら、選んだ本と一緒に読むことで、伝えたい内容を決められるようにする。

9 考察（成果・課題）

使用する本の選定

互いの好きな物語を紹介し合うという学習活動に向かうために、物語の内容や出てきた人物が分かりやすい本を、国語の教科書に掲載されている本の中から選定した。選定した本のリストには昔話の本を数冊入れていた。しかし、昔話の本を読む児童の様子を見てみると、昔話特有の言葉の言い回しに慣れない様子で、自分で読んで紹介するとなると読み取りが難しかったり意欲をもちにくかったりすることが予想された。昔話に親しむ学習は「むかしばなしをたのしもう」（1月）で計画されているため、現段階の児童にはまだ難しかったのだと考えられる。そこで、昔話は途中でブックリストから外すことにした。児童の発達段階に合った、紹介したいと思える図書を選定する必要があると感じた。

紹介する本の決め方

教師が選定した本をくじにして児童にひかせることで、友だちに紹介する本を決めた。本学級の児童は、読書は好きだが、同じようなジャンルの本ばかり選ぶ児童が多いという実態がある。紹介する本をくじで決めることで、自分では選ばない本でも手にとってみることができ、どんな物語なのか楽しみながら読む姿が見られた。また、くじを2回ひいても良いことにしたため、物語の内容の読み取りや友だちへの紹介が難しそうだと感じた児童も、安心して本を決めることができた。

情報の収集

紹介カードには付箋を活用し、付箋1枚について人物やお話の好きなところ1つを書くようにした。多くの児童が付箋に書いていたのは、お話の内容、人物の行動、言葉など、お話の好きなところの根拠となる箇所だった。なかには根拠に加えて好きな理由を書いている児童もいた。このように、根拠となるところだけではなく、なぜ好きなのかという自分なりの理由や気持ちが加わることで読み取りが深まり、本のよさが友だちにも伝わりやすくなるを考える。理由や気持ちを付箋に書くと長くなるため、紹介カードに書き加えたり、ペアで対話をする中で広めたり深めたりすることができるようによい。

要約学習の活用

週に1度行っている要約タイムの成果を感じる場面があった。例えば情報を収集する際に文章を付箋に丸写しせずに伝えたいことを自分なりにまとめて書いていたところや、本の好きなところを紹介しあう場面で紹介カードをそのまま読まずにカードを相手に見せながら自分の言葉で話していたところである。ま

